

# JASIS

## NEWS

# No. 62

2018/9/27

## 日本インテリア学会会報

### ■会長挨拶

#### 「IDM」の動きと本学会の立場

学会長 直井英雄（東京理科大学）

総会の折などの機会をとらえ、いま私が有志の一員として会合に参加している「インテリア関連団体の連合体（IDMと称している）」の動きについて、その概略を紹介してきました。この稿では、その動きが一体どのようなものなのか、また、本学会がどのような立場に関わりを持つべきなのかということについて、改めて私なりの考えを述べておきたいと思います。

まず、「IDM」という呼称ですが、これはInterior Design Meetingの略称です。名称の是非はともかく、そもそも、なぜこのような「インテリア関連団体の連合体」をつくろうとする機運が盛り上がってきたのか。これは、関係者それぞれに少しずつ考え方が違うのかもしれませんが、次のようなことだと私は考えています。

すなわち、戦後の高度経済成長の波に乗ってインテリア産業が躍進を遂げ、いくつものインテリアの資格や職能団体がつくられて今に至っているのは、皆様ご承知の通りです。これ自体は、インテリアの歴史にとって、ある意味の成果であったとはいえるのですが、わが国のインテリアの将来という少し広い視野から眺めると、現状はいかにも縦割り、あるいはバラバラであるといわざるをえません。わが国のインテリアの次の段階を考えたとき、このような乱立した団体に横串をさすような、何らかの「連合体」があってもいいのではないかと、との考えが生まれても不思議ではなかったのだと思います。

実は、初代会長の小原先生も、本学会創設にあたって、そのような横串を指す機能をイメージされていたのかも

しれません。しかし、本学会で担えるそのような機能は、あくまでも学術面に限られるのは自明のことで、実務面まで含めた横串機能は、やはりインテリア領域の職能団体を中心になって担うのが自然な姿だと思います。この「連合体」の組織設計は、今まさに進行中で、どのようなところに落ち着くのか見守っているところです。

さて、このような連合体への本学会の関わり方ですが、以上からも明らかのように、私は次のように考えています。まず、この「連合体」は、あくまでも職能団体を中心となるべき組織ですから、本学会のような学術団体の参加の仕方としては、運営の中心メンバーとして動くのではなく、この動きに賛同して応援する立場に徹すべきものと考えます。幸い、本学会のそのような参加の意向は「連合体」からも歓迎されているようであり、本学会にとっても、実務領域の諸団体と交流する機会が増えることは、悪いことではないと思います。

以上、この動きの中間報告をいたしました。もちろん、本学会が「正式に」参加を表明する段階になったら、本学会における「機関決定」が必要なことはいまでもありません。その段階になったら、改めて皆様とご相談したいと考えています。

### ■平成30年度 日本インテリア学会通常総会議事録

総務委員長 白石光昭（千葉工業大学）

記録 江川香奈（東京電機大学）

日時：平成30年6月16日（土）13:30～15:00

会場：千葉工業大学 津田沼校舎

出席者：直井、加藤、西出、上野、早野、内田、江川、金子、白石、高月、松本（吉）、渡邊、河田、河辺、棒田、片山、小宮、ペリー<理事18名>河村、清水（忠）、斎藤、長山（信）、伏見<評議員5名>曾根、西岡<正会員2名>（合計25名）

#### 配布資料：

- 1) 平成29年度日本インテリア学会通常総会議事録
- 2) 平成30年度日本インテリア学会総会資料
- 3) 名誉会員の推薦基準の変更
- 4) 論文報告集募集規定・審査要領（改訂案）
- 5) 論文集・梗概集のアーカイブ化に関する理事会資料
- 6) 日本インテリア学会（平成29/30/31年度）理事・評議員・役員名簿
- 7) 第25回卒業作品展・巡回展のお知らせ
- 8) インテリア関係団体年頭所感

#### 議 事：

1. 開会宣言（進行：金子）
2. 会長挨拶（直井会長）
3. 定足数の確認（金子）  
出席者は25名、委任状119通、合計144となり、総会の成立に必要な定足数（正会員319名の1/4以上：会則15条）を満たしていることが確認された。
4. 議長団選出  
議長および書記の選出に際し、事務局案により議長を直井会長、書記を江川氏、議事録署名人を松本（吉）理事、早野理事の2名に依頼し、直井会長の進行により議事に移った。
5. 審議事項1：平成29年度収支決算について（白石）（資料2）
  - ・資料に基づき、説明があった。
  - ・監査報告も問題ないことが報告された。
  - ・収支決算について承認された。



総会の様子

6. 審議事項2：平成30年度活動計画について（白石）（資料2）
  - ・活動計画について承認された。
  - ・次年度は事務局移転（金沢）を予定している。そのため事務局移転に関する費用を見込んでいる。
  - ・厳しい予算であるがご協力を今年度もお願いしたい。
7. 報告1：名誉会員推薦及び推薦基準申し合わせについて（白石）（資料3）
  - ・建部謙治先生、河田克博先生、松本直司先生、長山信一先生を名誉会員として推薦することが承認された。
8. 報告2：論文投稿締切について（論文審査委員会渡辺）（資料4）
  - ・締切を9月30日に変更する。大学の予算措置が2月ということ、修論等の忙しい時期と重なるため辞退者が数名出たため。
  - ・投稿者が多いので迅速な審査を進めるため、第三者査読委員を導入する。
9. 報告3：論文のアーカイブ化について（小宮）（資料5）
  - ・今回は30年分のアーカイブ化の作業を行う。ご協力が必要となるのでよろしくお願ひしたい。
10. その他の報告
  - ・次年度の大会の開催場所は決まっていない状況である。もう少し、待っていただきたい。（白石）
  - ・教育部会からの報告（金子）  
活動案として、高校、専門学校、大学と学校別のインテリア教育の在り方についてまとめる、卒業作品展を開催する、インテリア教育からみた見学会等の開催を検討している。
  - ・卒業作品展の開催のお知らせ（高月）（資料7）  
1校1点としていただけるように周知している。出展作品に担当教員から出展する主旨をひとことかいてもらうようお願いしている。また巡回展に出品するか、手伝いができるかどうかとも問い合わせる内容とした。
  - ・日本建築学会の大賞を高橋鷹志名誉会長が受賞したことが報告された。（西出）
  - ・第30回大会10月20、21日で開催し、土曜日に見学会、日曜日に発表の予定である。見学会は東京らしさということをふまえ、オフィスを対象とする予定である。（内田）
  - ・東北支部からの報告：見学会を開催する際には報告させてもらいたい。
  - ・中国・四国支部：支部総会を実施し、同時に講演会を行った。学生見学会・ワークショップ等を実施した。また優秀作品表彰を実施した。
  - ・東海支部：支部総会を実施した。同時に講演会を

行った。11月に講演に関連する見学会を開催予定。

- ・北陸支部：昨年見学会と発表会をインテリアコーディネーターの方などに参加していただき、今年も計画中である。
- ・関西支部：4月に総会をし、昨日見学会を実施し、同時に講演会を実施した。7月に見学会、その他見学会と講演会を計画している。

以上



懇親会の様子

## ■総会シンポジウム記録

### 「日本インテリア学会創設から30周年を機に今後を考える」

司会：直井英雄（学会長・東京理科大学）  
コメンテーター：加藤力（副会長）、西出和彦（副会長・東京大学）、江川香奈（東京電機大学）

総会終了後、午後3時15分より千葉工業大学7号館1階フレキシブルワークスペースにおいて総会シンポジウムを開催した。

冒頭、直井先生より今後の学会について語っていただくコメンテーター、加藤先生、西出先生、そして江川先生のご紹介があり、先ず加藤先生からお話をお聞きすることになった。

加藤先生は、故小原二郎先生のゼミを選ばれたことがインテリアへの出発点となり、卒業後に日建設計インテリア部に入社して担当された「地震とインテリア」についての研究を助けてくださったこと、突然に京都工芸繊維大学の先生になるようにと言われて京都に向かい、そこでインテリアの研究をしようとしたが、当時はインテリアという学問がなく、研究に大変苦勞しながらも助けていただいたことなど、故小原二郎先生との師弟関係を通じて得た50年に及ぶ貴重な体験の数々を聞かせていただいた。今では書店に行けば必ずインテリアに関わる

数々の書籍が多く並んでいるのも故小原二郎先生や加藤先生の研究があったからこそ、感謝させられた。

続いて、西出先生は、インテリア学会のあり方、目指すものについてお話された。その中で、「インテリアは見えない空気の部分をデザインする」ことを強調されておられた。この考えは、パーソナルスペースについて始めたのがはじまりと説明され、その理由が「人と人の間の空間」＝「建築の人間空間」である、とのことであった。このような中、快適さの設定はいろいろあるので、価値観のあることは言わない方がよい、どういう環境を目指しているかのスタートが必要であるとお話された。

江川先生は、日本インテリア学会を知ったきっかけが大学教育をテーマとした日本インテリア学会論文報告集の投稿であったこと、またこの研究で明らかになった教育関連と産業界・企業との連携や交流等の有効性についてお話しをいただいた。

最後の結びでは、直井先生が生活とインテリアは結びついており、どのへんをどのように行っていけばよいかを連携・交流によってインテリアに興味をもってもらうてはどうか。また、学会発表においてもこれまで色彩の研究、音の研究がないなど、これらの点においても研究の幅を広げていく必要があるのではないか。

さらに、学術団体として行うべき当学会の活動に3つの活動、

- ・「これからの学会について常に考え続けること」
- ・「若返りの促進」
- ・「支部活動と研究部会活動のさらなる活性化」

をあげられた。

まだまだインテリアが語られていない研究があるのではないかと、もっと裾野を広げてはどうか、などのご提言もあり、今後若い方々が興味をもてる学会にしたいものであると、思いを新たにした。

直井先生、加藤先生、西出先生、江川先生、貴重なお話ありがとうございました。

文：広報委員長 棒田邦夫（金沢学院大学）



シンポジウムの様子

## ■第30回大会（関東・東京）開催概要

大会実行委員長 内田和彦（オカムラ）

本年度の大会は久しぶりに東京で開催いたします。10月20日（土）～21日（日）に千葉工業大学をお借りして開催いたします。見学会・懇親会・講演会など東京らしさを感じていただけるような内容となっております。皆様のご参加をお待ちしております。

### ■10月20日（土）

#### 1) 見学会 13:00～17:30

※新宿集合、東京（大手町）解散となりますのでご注意ください。

集 合：12:30 集合の後、受付場所へ移動しますので遅れないようにしてください

見学先：①LINE office（新宿）13:00～14:30

2017年日経ニューオフィス賞受賞

②LIFORK（大手町）15:30～17:30

コワーキングスペースの見学及びワークスケープ・ラボ代表の岸本氏より世界のオフィスインテリアの現状をテーマとした講演をしていただきます

#### 2) 研究交流懇親会 18:00～20:00 小岩井プレミナール（東京駅丸の内丸の内ビルディング5階）

受 付：17:30～ ライトアップされた東京駅を一望できるレストランで、食事を楽しみながら会員相互の懇親を深める時間としてご利用ください。



LINE office



LIFORK大手町

### ■10月21日（日）研究発表会・卒業作品展 9:30～17:00

会 場：千葉工業大学 津田沼キャンパス 7号館

受 付：09:00～

開 会 式：09:30～

研 究 発 表：10:00～12:00 15:00～16:00

卒 業 作 品 展：10:00～17:00

理 事 会：12:00～13:00

記 念 講 演 会：13:15～14:30

講 師：東 利 恵 氏

テ ー マ：「星のや東京」のデザインと素材

閉 会：17:00

## ■平成30年度運営委員会だより

### □総務委員会

委員長 白石光昭（千葉工業大学）

皆様のご協力を持ちまして、無事総会も終了いたしました。ここ数年はできるだけ無駄を省き、支出を抑える計画をたて、ご承認を頂いてきました。今年度も昨年とほぼ同様の計画とし、ご承認を頂きました。厳しい予算のなかで活動をして頂いております支部会員や部会員の皆様には大変恐縮ですが、このような状況にも関わらず、活発に活動を続けて頂き、ぜひ新しい会員の増加につなげて頂きたいと考えております。（なお、総会の内容につきましては、総会議事録をご覧ください。）

今後も、皆様からのご意見を頂戴しながら、学会の行事等を考えていきたい所存ですので、正会員の皆様からのご意見を頂ければ幸いです。

### □広報委員会

委員長 棒田邦夫（金沢学院大学）

会報第62号を発行することができました。執筆してくださいました会員の皆様ありがとうございました。次号第63号は第30回大会の発表講評、見学会、懇親会の様子をメインに掲載していく予定です。ご担当の会員の方々には執筆のご依頼をお願いしますのでご協力のほどお願いいたします。なお、広報委員会では広報委員のローテーションによって会報の編集を行っております。しかしながら、まだまだスタッフを必要としておりますので、広報委員としてご協力をいただける方を求めています。どうぞよろしくお願いたします。

『広報委員会のメールアドレスjasis.koho@gmail.comがメールとして受信できなくなりました。先日来よりなかなか回復しないので、以下のアドレスに変更してくだ

さい。  
bouda@kanazawa-gu.ac.jp

## □国際委員会

支部長 ペリー史子（大阪産業大学）

今回は特にありません。

## □論文審査委員会

委員長 渡辺秀俊（文化学園大学）

2018年度のAIDIA Journalについては、8月3日の締め切りまでに投稿された論文を審査した結果、採用となった論文1編をAIDIA事務局に送付いたしました。例年の通りとすれば、年度末にはJournalが発刊されると思われます。論文を投稿してくださった会員の皆様、また、短い期間にもかかわらず迅速かつ厳正な査読にご尽力いただいた査読委員の皆様へ御礼申し上げます。

日本インテリア学会論文報告集については、論文投稿締切が昨年までは10月末でしたが、今年から論文報告集募集規定が改訂され、9月末が締め切りとなりましたので、ご注意ください。早めに論文執筆の準備をしていただき、本年度も多くの会員の皆様から論文投稿をしていただけましたら幸いです。

AIDIAの事務局は、学会に所属所属する諸国において持ち回りで担当しており、現在は中国に事務局があります。昨今、中国とのメール連絡がとりにくい状況にあるためか、今回はAIDIA Journalの募集情報を入手するのに手間取りました。そのため、JASISホームページでの論文募集告知と論文締め切りまでの期間が、極めて短くなってしまいましたことをお詫びいたします。

急速に進展する世界的なグローバル化、また、近年のアジア諸国のインテリアに対する関心の高まりに対して、本学会の立ち位置をどうするかは、学会の今後の課題の一つであると思います。現在のAIDIA事務局（中国）の連絡先は、aidia@ciid.com.cnです。会員の皆様と情報共有させていただき、この課題に対応するための足掛かりとします。

本学会の論文審査について、今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## □表彰委員会

卒業作品展担当 高月純子（女子美術大学）

第30回日本インテリア学会大会会場にて、第25回日本インテリア学会卒業作品展を開催致します。

日程：大会最終日／10月21日（日）

時間：10：00～17：00

会場：千葉工業大学津田沼キャンパス7号館1階 フレキシブル・ワークスペース

出展参加登録校：40校（40作品）

◇大学（34校）：愛知淑徳大学、宇都宮大学、大阪産業大学、九州産業大学、九州女子大学、京都女子大学、京都造形芸術大学、京都橘大学、共立女子大学、神戸松蔭女子学院大学、駒沢女子大学、札幌市立大学、滋賀県立大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、女子美術大学、椋山女学園大学、成安造形大学、拓殖大学、多摩美術大学、東京藝術大学、東京造形大学、東京電機大学、名古屋芸術大学、名古屋工業大学、日本大学（工学・福島県）、日本大学（芸術・東京都）、日本文理大学、広島女学院大学、広島大学、福井工業大学、文化学園大学、武庫川女子大学、武蔵野大学。

◇短期大学（2校）：岩手県立大学盛岡短期大学部、日本大学短期大学部。

◇専門学校（3校）：ICSカレッジオブアーツ、京都建築大学校、フェリカ建築&デザイン専門学校。

◇高等学校（1校）：千葉県立市川工業高等学校。

（\*学校名はアイウエオ順）

大会展示後に巡回展を行います（教育部会企画）。

巡回展日程：11月14日（水）～11月18日（日）

（展示時間は後日お知らせ致します。）

会場：タチカワブラインド銀座スペース オッテ

住所：東京都中央区銀座8-8-15 タチカワブラインド銀座ショールーム地下1階

出展参加登録校：40校（40作品）

卒業作品という多様な研究や学びの集大成から、学生の新鮮な視点を汲み取り、インテリアの複層的な現況を、表現方法・メディアの変化を含めて社会状況や歴史へと照らし合わせる貴重な場を持つ機会と考えております。何卒、ご協力・ご来場いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ■平成30年度支部だより

### □北海道支部

支部長 小澤 武（小澤建築研究室）

#### 私見一道南の木材と私のデザイン

支部としての活動報告なしの状況が続くのはとても歯がゆいのですが、今回は私の建築家としてのフィールドである道南の木材事情と私のデザインに使用される木材の背景について書いてみます。

## 1. 針葉樹一杉、唐松、榎（とど）松

道内の建築用材は1990年代から外材（北米、ロシア産）が道産材を駆逐してきました。

国内全域が同じような状況に陥りました。

これは造材（山仕事）―製材―大工による刻み、いわゆる川上から川下への流れが高齢化・なり手不足によって破綻し始めた時期と重なります。

道南で操業を続ける製材所のほとんどは本州（関東、中部、新潟方面が多い）向けの小割材（間柱、貫、垂木）をほぼ毎日トレーラーで発送しています。

数年前のことで、ある製材所の経営者が地元からの発注はほんの数パーセントに過ぎないと洩らした時にはさすがにびっくりしました。

近年の木材需要の高まりで状況は改善されつつあるようですが、雇用と人材育成という産業構造の問題、生活環境の中で木材がどのように見えているかといった根本的な問題は後回しにされているように思います。

## 2. 広葉樹

30年来の友人に家具・フローリングメーカーに原板を納品する製材所の経営者がいます。

彼のところには道内全域から広葉樹の原木が集まりますが、メーカーの要求に合わせて木取をすると歩留まりは3～4割だと言うのです。

と言うことは半分以上は製品として生かされず最悪チップか廃材です。

もちろん版の状態で撥ねられても天板として利用価値がありますからストックに回されるのですが、タイムリーに需要がありませんから不良在庫の山となり、最悪腐朽とともに廃材です。

参考までに、家具・銘木建材メーカーは原木市で単価が高くても良材を競り落とします。

良材から見放された原木が彼の目利き、木取の技術によって行場を与えられるのです。

伐採された木材を使い切ると言う観点から考えると、彼の存在はとても貴重です。

## 3. 製材所の木材とデザイン

彼の製材所に通ううちに、商品価値なしとみなされたデッドストック材を建築・インテリアに生かす道を模索するようになりました。

趣味的な空間にならぬよう気をつけてデザインを詰めていくのは、クライアントの喜びに変えるという仕事の意味も含めて、思った以上に大変です。

材料が安いからという理由はデザインのほんの一部でしかないのですから。

彼との連携で6Mの長材から太鼓梁を切り出すこともあります。

家具造作に詠える板材をストックヤードから探し出すことも。

又、家具職人の存在も大切です。

建築に組み込むカウンター、キャビネット、キッチン、単体で製作可能なテーブル、コンソール、チェア、ベンチ等。

普段は無垢の良材に向き合い指物的仕事をする彼に、キャビネットメーカー（箱物）としての金物のアタッチの技術をプロジェクトを通じて習得してもらっています。

10年程前に亡くなったレヴィ・ストロースは著書「野生の思考」でブリコラージュ（bricolage）という概念を示しています。

現代のエンジニアリング（高度な技術指向）に対して、未開社会の器用人たちは有り合わせの材料と道具を持ち寄り必要な物を作ってしまうということです。

建築・インテリアの自分のデザインにブリコラージュの手法が潜んでいることに気づかされました。

又、数年前から道南の針葉樹専門の製材所との連携から、軸組みの道南杉を調達できるようになりました。

小さな設計事務所で出来ることはささやかなことですが、山から伐り出した木材を使い切りたいと秘かに思っています。

函館に移住して40年、建築・インテリアの私のデザインを考え続け、ひとつの手法にやっと近づいたような気がしています。

## □東北支部

支部長 早野由美恵（東北芸術工科大学）

今回は特にありません。

## □関東支部

支部長 内田和彦（オカムラ）

久しぶりの関東開催である第30回大会（関東・東京）に向けて準備を進めています。

皆様のご参加をお待ちしております。

## □東海支部

支部長 河辺伸二（名古屋工業大学）

2018年6月30日（土）に、東海支部総会が名古屋工業大学にて開催されました。例年通り活動報告・会計報告、事業計画・予算が議題となり審議、承認されました。総会終了後には、高橋敏郎副支部長の「L・コルビジェそしてロマネスク」の講演会があり、写真を鑑賞しながらL・コルビジェとロマネスクの建築・インテリアについて聞くことができ、大変充実した講演会でした。

研究交流懇親会は、近くのサッポロビール名古屋ビール園浩養園で開催しました。



講演会風景

## □北陸支部

支部長 棒田邦夫（金沢学院大学）

当支部では11月末を目標に高岡市金屋地区にて、地元の若手工芸作家との交流と見学会を計画しております。現在、作家の方々の仕事状況を考慮しながら日時を調整中です。ここ数年金沢に進出してくる施設のインテリアに、高岡で活動している方々の作品が飾られることが多くなってきており、この機会にその魅力について学んでみようと考えております。

## □関西支部

支部長 片山勢津子（京都女子大学）

7月8日、『一ブルーノ・タウト設計—旧日向邸見学会』（熱海市）を行いました。「日向邸が修復工事に入る」という情報を得て、急遽決定した見学会です。関西から熱海まではかなりハードな行程で参加者人数が心配されましたが、TV放映の影響もあってか20名の予約枠はすぐに埋まりました。ただ、見学会の前日まで西日本は大雨続き、見学会実施も危ぶまれるような事態です。交通網が遮断されないかと心配されましたが、新大阪以东は雨の影響はなく、熱海の晴天の下で自然災害の不条理さを感じた次第です。今回の大雨の被害に遭われた方には、改めてお見舞い申し上げます。

オプションツアーはMOA美術館見学、その後は有志で懇親会を催しました。最終的に見学会参加は18名でした。今後も、行動範囲を広げて活動していきたいと思っておりますので、ご意見をどうぞ支部までお寄せください。

## □中国・四国支部

支部長 谷川大輔（近畿大学工学部）

### 1. 支部総会

■日時：平成30年6月9日（土）14:00～15:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A601

■出席者：8名

本年度も総会講演会を皮切りに、学生ネットワーク「マンセル」の企画による、見学会、講演会、ワークショップなど、活発に活動が行われる予定である。中四国では、平成30年7月豪雨災害により、見学会・講演会を延期したが、こちらも9月に行われる予定である。

### 2. 総会学術講演会（支部会員による講師）

■題目：「環境建築」の深化：地域宇宙型建築へ

■講師：渡辺菊真氏（高知工科大学）

■日時：平成30年6月9日（土）15:30～17:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A601

■参加者：15人

渡辺氏のこれまでの作品を中心に最先端の「環境建築」についての講演会であった。特に、タイ国境の孤児院兼学校：虹の学校学舎「天翔る方舟」と、ご自身の自邸である日時計のあるパッシブハウス「宙地の間」を例に、祈りの空間＝心的環境を中心とした新しいパッシブ建築のあり方「地域宇宙型建築」についてお話された。大変興味深く、沢山の質問と共に活発な議論が行われた。



総会講演会

## □九州支部

支部長 森永智年（九州女子大学）

今回は特にありません。

## ■平成30年度研究部会だより

### □歴史部会

部会長 河田克博

今回は特にありません。

### □人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

いつもお詫びばかりで申し訳ありません。今年度は後半に研究会を開催していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。なお、会員の皆様から研究会の内容等につきましてご要望があればぜひご連絡頂きたい。また、部会の活動に関心がある方もぜひご連絡下さい。お待ちしております。

(mitsuaki.shiraishi@it-chiba.ac.jp)。

### □教育研究部会

部会長 金子裕行（千葉県立市川工業高等学校）

今回は特にありません。

### □期限付き研究部会

部会長 西出和彦（東京大学）

### スマートインテリア研究部会

代表 中村孝之（生活空間研究室）

本研究部会は生活家電のロボット化、HEMS・BEMSといったIoT・AI技術の導入が進むインテリア空間において、装置技術側でなく、インテリア計画側から、人の行動や各種情報データの利活用によって空間の最適化を行う「空間の知能化」に向けた研究を行うことを目的としています。

メンバーは、関西支部（中村・来海・井上・小柳）を中心に研究者、デザイナー、エンジニア等を加え、分野や世代の垣根を越えた学際研究となっています。

研究部会は、第1回（2017年12月）第2回（2018年1月）第3回（2018年8月）第4回（2018年9月（予定））で、今後も定期的に行う予定です。これまでは、主に住宅スマート化の動向情報の整理を行っており、その受容性に関する調査を開始したところです。個々の装置の導入が始まっているスマート市場の最新動向をまとめ、人の行動や感情をつかさどるインテリアデザインに新たな価値や役割を付加するスマート化のデザイン要件を検討

する予定です。

本研究部会の研究内容や開催日などご興味のある方は、以下WEBサイト又は、メールにてご連絡ください。  
<http://www.jasis-kansai.jp/sin/index.html>  
スマートインテリア研究部会専用メール：sin@jasis-kansai.jp(担当：井上)

### ユニバーサルデザイン研究部会

代表 植松暉子（AP～N：エイジレス・プランニング・イングネットワーク）

#### 住まいのインテリア空間をユニバーサルデザインの視点で調査・分析

我が国は現在、世界一の高齢社会といわれ、平均寿命は、男性80.32歳、女性は87.14歳です。厚生労働省は高齢社会に対応するために単に長生きするだけでなく、いかに健康上の問題に制限されることなく生き活きと自立した日常生活をおくれる「健康寿命」（男性71.19歳女性74.21歳）の延伸が目標です。

高齢者が身体の衰えをカバーしながら高齢期を生き活きと快適で自立した生活が出来るためには、日々過ごす「住まい」が重要です。いかに高齢者にとって「住まい易い内部空間」であるかです。そのため、高齢者や障がい者だけでなく健常者・子供などすべての人に使い易い住まいが求められます。住まいのインテリア空間を著しい進化のみられるユニバーサルデザインの視覚視点と使用視点から調査・分析しております。

### 居住福祉環境部会

代表 西岡基夫（大阪市立大学）

1994年のハートビル法制定以降、インテリアにおけるバリアフリー化の対応は進められてきましたが、今なお高齢者・障害者も含めた様々なユーザーのニーズがフィードバックされているとはいえません。本研究会では様々なユーザーとの意見交換を中心に、現状の問題点や求められる福祉環境について、整備基準の把握、事例調査を行い、「使いやすさ」「使いにくさ」を細かく分析することを目的としています。

これまで、障害者が中心となり公共空間の利用について意見交換を行っている「手すりについて考える会」に昨年11月から本年5月まで計7回参加させて頂き、当事者の皆様のご意見を伺う機会を得ました。また、7月1日には公開ミーティングにも参画させて頂き、手すりやスロープが設置されてさえいればバリアフリーである、とは言えないという、切実かつ厳しいご意見も聞かせて頂くことができました。今後も引き続き、日常生活で不安や不便を感じているユーザーのご意見から、イン



テリア計画に反映させるべき項目を整理し、ゆきとどいたバリアフリーに近づけられる活動につなげていきたいと考えています。



手すりについて考える会との意見交換



2018/7/1 手すりについて考える会・オープン会議に参画

## ■平成30年度 日本インテリア学会 第1回理事・評議員会 議事録

記録 江川香奈（東京電機大学）

日 時：平成30年 6月16日（土）11:00～13:00

会 場：千葉工業大学 津田沼校舎

出席者：直井、加藤、西出、上野、内田、江川、金子、白石、高月、松本（吉）、渡邊、河田、河辺、棒田、片山、小宮、ペリー<理事17名> 河村、斎藤、長山（信）、伏見 <評議員4名>

配布資料：

1) 平成30年度第1回理事・評議員会議事次第

- 2) 平成29年度日本インテリア学会第2回理事会議事録・平成29年度日本インテリア学会通常総会議事録
- 3) 平成30年度日本インテリア学会総会資料
- 4) 名誉会員の推薦基準の変更
- 5) 論文報告集募集規定・審査要領（改訂案）
- 6) 論文集・梗概集のアーカイブ化に関する理事会資料
- 7) 日本インテリア学会（平成29/30/31年度）理事・評議員・役員名簿
- 8) 入退会者名簿（2017年10月23日～2018年6月16日）
- 9) 第25回卒業作品展・巡回展のお知らせ
- 10) インテリア関係団体年頭所感

議 事：

1. 開会宣言（白石）
2. 会長挨拶（直井会長）
3. 定足数の確認  
理事25名中17名が出席、5名の委任状により、理事会の成立に必要な定足数（1/2以上：会則17条）を満たしている。また、評議員95名中21名が出席、30名からの委任状により、評議員会の成立に必要な定足数（1/3以上）を満たしていることが確認された。
4. 前回議事録の確認  
・資料2を配布し、確認の上、資料1の次第に基づいて議事の進行を始めた。
5. 審議事項1：平成29年度収支決算について（白石）  
・資料に基づき、説明があった。  
・来年度は、表彰委員会活動費はあるか。  
・資料に掲載している通り、来年度は表彰委員会として予算を確保している。  
・収支決算について承認された。
6. 審議事項2：平成30年度活動計画について（白石）（資料3）  
・次年度は事務局移転（金沢）を予定している。  
・厳しい予算であるがご協力を今年度もお願いしたい。  
・活動計画について承認された。
7. 審議事項3：名誉会員推薦及び推薦基準申し合わせについて（白石）（資料4）  
・総務委員会から平成30年度大会において、建部謙治先生、河田克博先生、松本直司先生、長山信一先生の4名が名誉会員授与対象者として推薦され、承認された。  
・名誉会員推薦枠について、支部枠があるのかとの質問がなされた。支部枠ということではなく、あくまで総務委員会から推薦を依頼している。会則によれば、各会員が推薦できるようになっている。  
・名誉会員の推薦基準の変更について議論がなされ、「今は学会活動の第一線から退いているが」との表現を削除し、「学会のために顕著な活動を行い、こ

れからも学会への貢献が期待される正会員」とすることで、承認された。正式な文章は次の理事会で確認後、承認を得ることになった。

8. 審議事項4：論文投稿締切について（論文審査委員会 渡辺）（資料5）
  - ・提出期限を9月30日に変更する案が提案され、承認された。理由は、大学の予算措置が2月ということ、修論等の忙しい時期と重なるためである。（昨年度は辞退者が数名出た。）
  - ・投稿者が多いので迅速な審査を進めるため、第三者査読委員の導入案が提案され、承認された。
  - ・第三者査読委員の人選は、論文審査委員会が行う。
  - ・第三者査読委員、第三査読委員が混在するので、第三査読委員に統一する。
9. 審議事項5：論文のアーカイブ化について（アーカイブ化WG 小宮）（資料6）
  - ・小宮理事より、今後のアーカイブ化の日程・予算について説明がなされ、活動が承認された。
  - ・アーカイブ委員会（または部会）を発足させるべきとの意見が出され、承認された。
  - ・著作権について、論文報告集には論文投稿規定に記載があるので、梗概集についても必要である。2019年に理事会・総会にて著作権規定改定について理事会で検討して頂きたい。なお、過去の論文については案内を出して、承認を取る方法を考えている。
  - ・今回は30年分のアーカイブ化の作業を行うが、今後のアーカイブ担当も決めた方がよい（継続的な担当として）と考える。
  - ・予算については、ボランティアも含め以前提示した金額を削減し、今年度より4年度間実施する予定で、それぞれ15、15、30、30万円を計上している。今年度分は先ほど承認されているが、事務局からは予算が厳しいので次年度以降は都度検討が必要であるとの意見が出された。
10. 審議事項6：入退会の承認（白石）（資料8）
  - ・大会時理事会以降6月15日までの入退会者について承認された。
  - ・連絡先不明の人は、退会扱いにすることで承認された。
  - ・未納者については事務局から連絡をし、意志を確認するので、次回理事会の審議とさせていただきたい。
11. 審議事項7：その他（報告）
  - ・教育部会からの報告（金子）

活動案として、高校、専門学校、大学と学校別のインテリア教育の在り方についてまとめる、卒業作品展を開催する、インテリア教育からみた見学会等の開催を検討している。
  - ・卒業作品展の開催のお知らせ（高月）（資料9）

出展作品に担当教員から出展する主旨をひとことかいてもらうようお願いしている。また巡回展に出品するか、手伝いができるかどうかとも問い合わせる内容とした。

- ・日本建築学会の大賞を高橋鷹志名誉会長が受賞したので、報告させていただく。（ホームページに受賞に関するお知らせを掲載。）
- ・63人のインテリア論の刊行についてのお詫びについて、広報委員長棒田先生が代表して報告をされた。森保先生、宇賀先生の手紙について不手際があり、お詫びの手紙、会報での報告をする予定である。両先生の原稿は会報と同時に差替えとして同封する。
- ・期限付きの委員会の状況を報告する場所がないので、そういった場を設けてほしいとの要請があり、会報を活用することとした。
- ・内田支部長から、第30回大会を10月20、21日で開催し、土曜日に見学会、日曜日に発表の予定であると報告された。会場は千葉工業大学。見学会は東京らしさということをふまえ、オフィスを対象とする予定である。

以上



理事・評議員会の様子

## ■事務局より

白石光昭（千葉工業大学）

総会開催後に、会員の皆様宛に年会費支払い依頼を送らせて頂きました。早速、お支払いいただいた会員の皆様からの年会費の確認作業をしております。まだ、お支払いが済んでいない会員の方は至急ご送金頂ければ幸いです。また、大会発表に向けて、新たに入会して頂く方の会員登録の作業も同時に進めております。

すでに多くの会員の方にご承知頂いておりますように、事務局は毎日開かれているわけではありません。

また、今年度は事務局がおかれております千葉工業大学にて大会が開催されますので、今後何かとご不便をおかけすることがあると思われます。さらに、秋の時期は費用等も含めて調整を行うため、通常よりも事務局があいっている日が少なくなることも重なります。ご不便をおかけすることも多々あると思ひますが、何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願ひいたします。なお、お問ひ合わせはできるだけメールにてお願ひいたします。

最後に、事務局の移転についてお知らせいたします。東京大学西出研究室から事務局を千葉工業大学上野研究室に移転して引継ぎ、さらに同大学白石研究室で引継ぎましたが、次年度からは事務局を金沢に移転する計画をしております。詳細が決まりましたら、会報やホームページでお知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします。

## ■ 編集後記

広報委員 松尾兆郎（穴吹デザイン専門学校）

総会のご報告ならびに大会準備号として、会報62号をお届けします。9月上旬の発行予定が遅れましたことを、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。執筆依頼から原稿締切りまで非常に短い期間だったにもかかわらず、迅速にご対応いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

今号の編集作業の間、私の暮らす広島や多くの地域で豪雨による甚大な被害がありました。今も復旧に向けて多くの方々が厳しい残暑の中懸命に作業を続けておられます。そこに关わる方々のエネルギーは実に力強く、生活の回復にかける思いにはすさまじいものを感じます。しかし、被害の影響は計り知れず、直接被災された方々をはじめ、生活の基盤が破壊されてしまった中で生活する方々が、一日も早く安定した暮らしを取り戻されることを願います。そして、目の前で起きたことに、まがりなりにも「インテリアに関わる者として何ができるのだろうか」と自問する日々です。

61号からの企画として「インテリア学講座」を継続しています。企画の主旨や随時募集する原稿の詳細については、60号の広報委員会報告に掲載されておりますが、ここで簡単に概要を再掲いたします。

【募集】「インテリア学講座：会員相互の情報共有のた

め、まだ道半ばの研究からご自身のお仕事紹介の場として気軽な活用が可能です。寄稿は随時受付、掲載会報は例年5月末発行の春号とします。原稿の基本は見開き2ページ（5400文字以内、写真・図面・絵も含む）とし、Wordファイルにて、広報委員会 jasis.koho@gmail.com までお願いいたします。」

初めての編集作業で原稿執筆者の皆様をはじめ関係の皆様へ多大のご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。今回の編集の中で得られた気付きを広報委員全員で共有し、更に皆様のお役に立つ会報誌になるよう努力してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

### ■日本インテリア学会会報第62号（2018.9.27発行）

編集者：松尾兆郎

発行者：直井英雄（日本インテリア学会会長）

広報委員会：樺田邦夫（委員長）

井上貴司、小俣祐樹、清水隆宏、

西岡基夫、松尾兆郎

e-mail: bouda@kanazawa-gu. ac. jp

### ■事務局

日本インテリア学会 事務局 押切泰子

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学 白石研究室気付

電話：080-2386-5652 FAX：047-478-0552

e-mail: jimukyoku@jasis-interior.jp